

「旅の途中で」

—欧州 4 人の Samurai 展—

Part.1 吉田堅治

開催のご案内

会 場：新宿パークタワー 1F「ギャラリー・1」

会 期：2001年11月2日(金)～25日(日)

新宿パークタワー「ギャラリー・1」(新宿区西新宿3-7-1)では、来る11月2日(金)～25日(日)まで、「旅の途中で」—欧州4人の Samurai 展—Part.1 吉田堅治を開催します。

アートを志す者なら誰しものが憧れる、ヨーロッパ。そこには、長い歴史の中で育まれた芸術への敬愛、理解があります。しかし、滞欧アーティストの前に立ちはだかる壁は高く、これまでも多くのアーティストたちが挑戦しながら、道半ばにして挫折し、目的を究めるに至った者たちはごく小数です。それ故、異文化の中で磨かれたアーティスト魂と感性は「欧州 Samurai (サムライ)」と呼ぶにふさわしい重みを持って、彼らの作品に反映されています。

「ギャラリー・1」では、今から30年以上前の同時期、それぞれの道を探究するために渡欧した4人の男性作家を3回シリーズでご紹介します。Part.1である本展では、パリ在住の画家、吉田堅治の魅力に迫ります。(Part.2は来年2月、Part.3は4月に開催予定です。)

吉田堅治、77歳。フランス・パリに住むこと37年の画家の原点は、特攻隊員として敗戦を迎えたことにあります。「日常としての死」と向き合い「絵を描く哲学者」とも称される彼のアートの原点は「生命」(la vie)。ダイナミックな作品のもつ圧倒的な迫力に、観る者はただならぬものを感じるはず。作品は、大英博物館をはじめ、ヨーロッパやアメリカ、メキシコなどの数々の公的美術館に所蔵されています。芸術家として既に完成期に入った吉田氏ですが、心の奥底にある熱烈な「命の本質」への探求は、未だ弱まることなく、「魂追求の旅」は続きます。「激しい中に優雅さを合わせ持つ」と各国で高い評価を得ている彼の作品は力強い魅力に溢れています。本展では、油絵約20点をご紹介します。

本資料をご参照の上、「イベント・展覧会情報」としてご紹介いただければ幸甚に存じます。また、ご取材を賜りますよう、ご検討の程よろしくお願いいたします。

[開催概要]

名 称：「旅の途中で」—欧州 4 人の Samurai 展—Part.1 吉田堅治
会 期：2001 年 11 月 2 日（金）～ 25 日（日）
時 間：午前 10 時 30 分～午後 6 時 30 分
会 場：新宿パークタワー 1F「ギャラリー・1」
（新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 1F TEL:03-5322-6633）
電 車：JR 新宿駅南口から初台方面に徒歩約 12 分
京王新線初台駅から徒歩約 8 分
地下鉄：大江戸線都庁前駅から徒歩約 8 分
バ ス：新宿駅西口京王百貨店前から都営バス「新宿車庫」行にて
「西参道下車」
シャトルバス（無料）10:10～18:50 の間、新宿駅西口の新宿エルタワー前から
10～15 分間隔で運行
但し、曜日により運行時間が異なる場合もあります。
主 催：パークタワー・アートプログラム
提 供：東京ガス都市開発株式会社
入 場：無料
展示内容：油絵 約 20 点

< この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。 >

パークタワー・アートプログラム 担当：綿野
〒163-1004 新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 4F
東京ガス都市開発株式会社
TEL: 03-5322-6633 FAX: 03-5322-6635
(平日の午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分まで)
URL : <http://www.tgud.co.jp/parktower/>
または
アーバン・コミュニケーションズ 担当：永田、加藤
TEL: 03-5444 - 6128 FAX: 03-5442-8622

【吉田堅治（よしだ けんじ）プロフィール】

- 1924 大阪府池田市に5月24日生まれる。
- 1943 大阪第二師範（現大阪学芸大）卒業。
林清先生と古城戸先生（戦死）から絵画を学ぶ。林先生との関係は1988年先生が亡くなるまで続く。また松林寛之先生の薫陶を受ける。
海軍航空予備学生となり、パイロット（特攻飛行隊員）としての訓練を受ける。
- 1945 終戦と共に大阪で教職に就く。
- 1951 東京に行き、教師を続ける。
- 1964 教職を辞して、パリに行く。スタンリー・ウィリアム・ヘイターの“アトリエ 17”に入る。ヘイターとのつながりは彼の死まで続く。（これ以降、一連の抽象的版画の創作を始める）
- 1966 “アトリエ・デュ・ノール”結成に加わる。
ノルウェー政府の給費を受ける。
- 1968 イスラエルのキブツ、シャミールに2ヶ月入り、イスラエル各地およびヨルダン、シリア、レバノンを廻る。
- 1972 スペインの彫刻家、アペル レス・フェノーサに彫刻を学び、1987年の彼の死まで続く長い交際が始まる。この年からヨーロッパおよび中近東を旅するようになる。（このころからキャンバスへ描くようになる）
- 1983 日本再認識の必要を感じて、3ヶ月の帰国をする。
- 1986 妻寛子死す。
- 1987 カイロ、アレクサンドリア、そして特に王陵のルクソールを訪れる。
- 1989 アメリカに初めて行く。
- 1990 メキシコとキューバに行き（3ヶ月）、マヤ シリーズを制作する。
- 1993 英国大英博物館ジャパンギャラリーに於ける第一回展覧会として「吉田堅治展」が開催される。これ以降「国際美術家」として、ヨーロッパ各国、アメリカ、メキシコ、カナダなどの公的美術館の企画展、個展など多数の展覧会を行う。



LA VIE1990 (195 x 260)



MEDITATION1990 (162 x 130)